

授業再開後の本校における新型コロナウイルス感染症予防の取組

感染源を絶つこと

感染経路を絶つこと

抵抗力を高めること

高等学校に通学する生徒は、生活圏が広がることから学校外における行動について自ら感染症対策を意識することが重要です。

また、学校内でも教員の直接的な監督下にはない行動や自主的な活動が増えることから、感染対策について生徒自ら留意することが必要不可欠です。

健康観察の実施

登校前や帰宅後の決まった時刻に体温を測定し、体調全般を確認します。登校前の体温が平熱よりも高い時は、登校を控え回復するよう専念します。その際の欠席は『出席停止』となり、欠席の扱いとはなりません。

また、以下の症状を自覚した際は、かかりつけ医に相談するか本県の受診・相談センターに連絡し、指示に従います。

【注目する症状】

咳、呼吸困難、鼻汁・鼻閉、咽頭痛、嘔気・嘔吐、結膜充血、頭痛、全身倦怠感、関節筋肉痛、下痢、味覚・嗅覚異常等



効果的なマスクの着用

令和3年9月15日(水)現在、国内における新型コロナウイルス感染症の罹患者は、1,646,240名です。死亡者は、16,887名です。

新型コロナウイルス感染症に罹患した人が身近な人に感染させてしまう可能性がある期間は、発症の2日前から発症後7-10日間程度とされています。また5分間の会話は、1回の咳と同等です。会話をする際は可能な限り真正面を避けましょう。

マスクを着用する際は、鼻と口の両方を確実に覆います。その際、隙間がないよう鼻を覆い顎までマスクで隠します。



まめな手洗いと手指消毒

登校したら、まず30秒間程度かけて流水と石鹸で丁寧に手を洗います。自分の好きな音楽を脳内で30秒間歌うといいです。手洗後は、清潔なハンカチでふきとります。ハンカチは自分の物を使用し、決して他人と共用しないでください。

帰宅後は、まず手や顔を洗い、できるだけ直ぐに着替えたり、シャワーや入浴で身体の汚れを落とすといいです。

【手洗いのタイミング】

外から校舎に入るとき、咳やくしゃみ、鼻をかんだとき、昼食の前後、掃除の後、トイレの後、共有のものを触ったとき



常時換気



新型コロナウイルス感染症では、「換気の悪い密閉空間」、「多数が集まる密集場所」、「間近で会話や発声をする密接場面」という条件の場で感染が広がります。

廊下側と窓側を対角に開け、効率的に換気します。窓の小窓や廊下側の欄間を全開にすると効果的です。

気候上、常時換気が難しい場合は、30分に1回以上の5分程度の時間を窓を全開にして換気します。

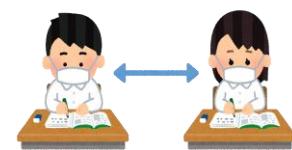


共有箇所の清掃・消毒

学校生活の中で消毒によりウイルスをすべて死滅させることは難しいです。物の表面についたウイルスの生存期間は、24時間-72時間くらいと言われています。多くの人がよく手を触れる箇所（ドアノブ、手すり、スイッチ等）は、掃除の時間に水拭きした後に消毒液を浸したペーパータオル等で拭きます。

また、スマホなどの電子機器をこまめに掃除し、他人との共有をしないでください。

家庭でパソコンやテレビのリモコン等の電子機器を共有する場合も、こまめに掃除することが必要です。



身体的距離の確保

人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空けます。

また、握手やハイタッチ、ハグをしないでください。

特にも、マスクを外して行う授業等の際は、自分と身近な人の体調を十分に確認し合いましょう。

いつもの様子と違う時には、保健室利用願を持参し、養護教諭がいる保健室へ来てください。

一緒に体調を確認しましょう。

